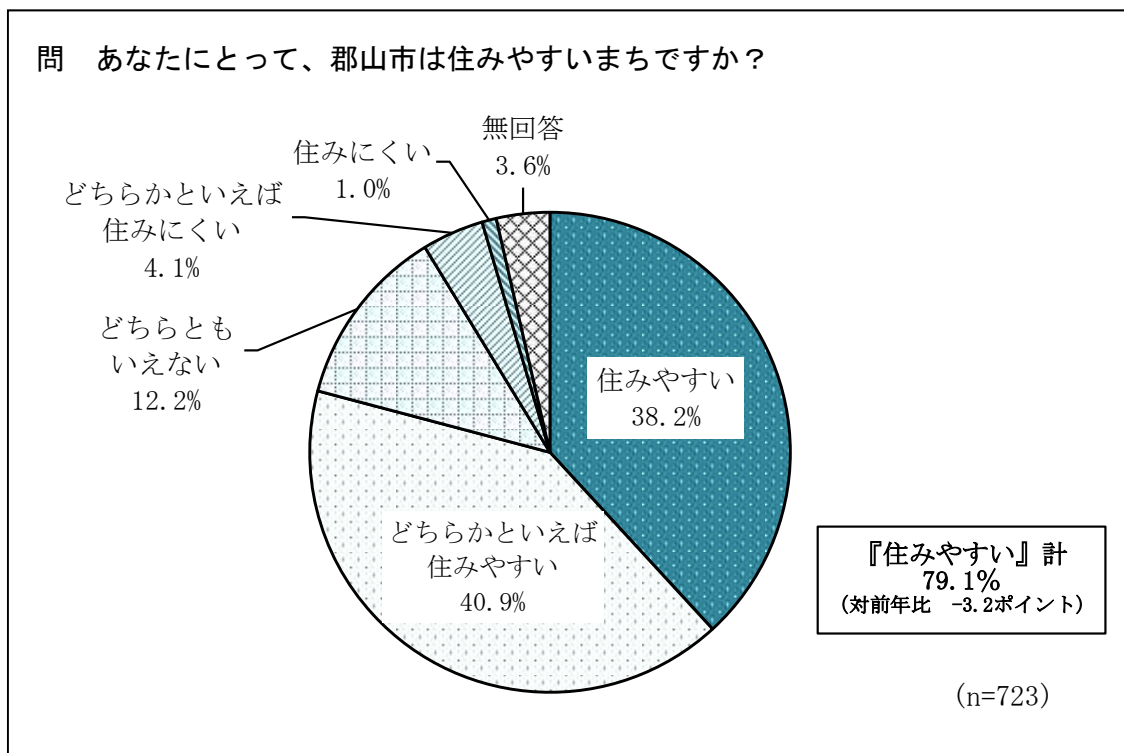
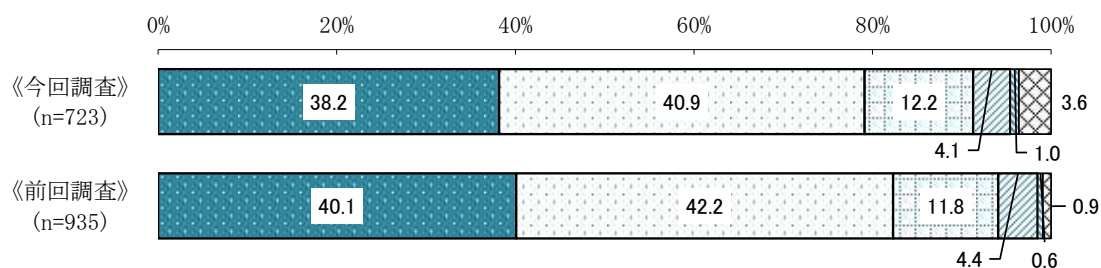


1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



■ 住みやすい □ どちらかといえば どちらとも どちらかといえば 住みにくい 無回答
住みやすい いえない 住みにくい



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

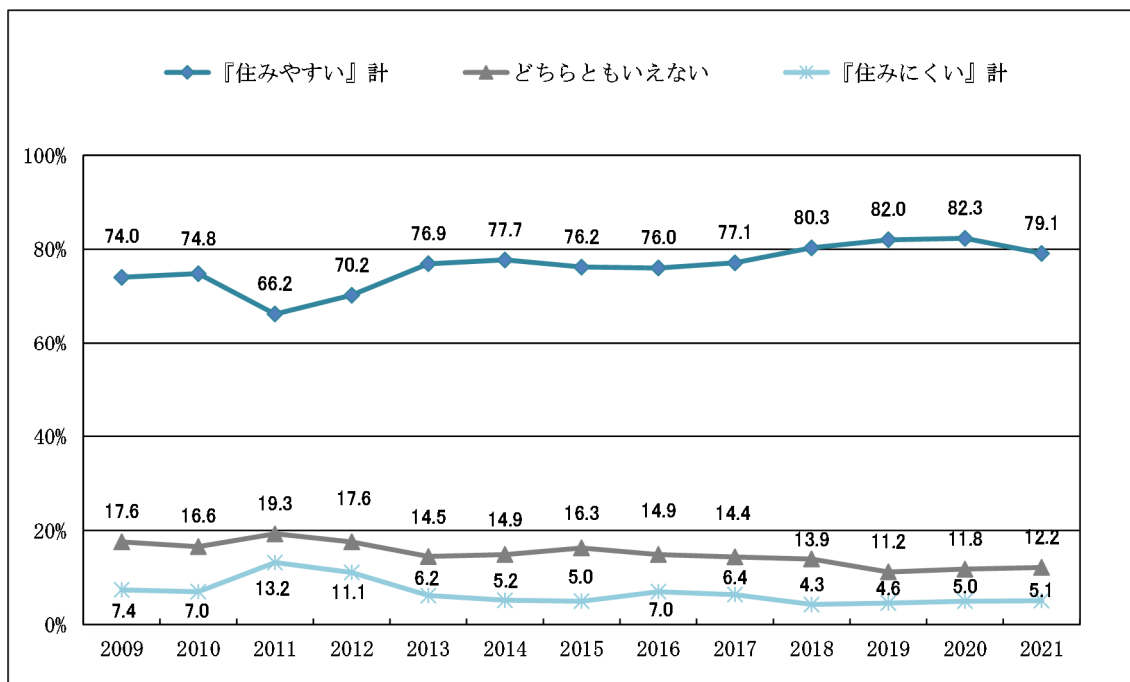
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(38.2%)と「どちらかといえば住みやすい」(40.9%)の両者を合計すると『住みやすい』(79.1%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.1%)と「住みにくい」(1.0%)を合計すると『住みにくい』(5.1%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは3.2ポイント低下しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』の合計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、横ばいで推移しています(図1-1参照)。

図 1-1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

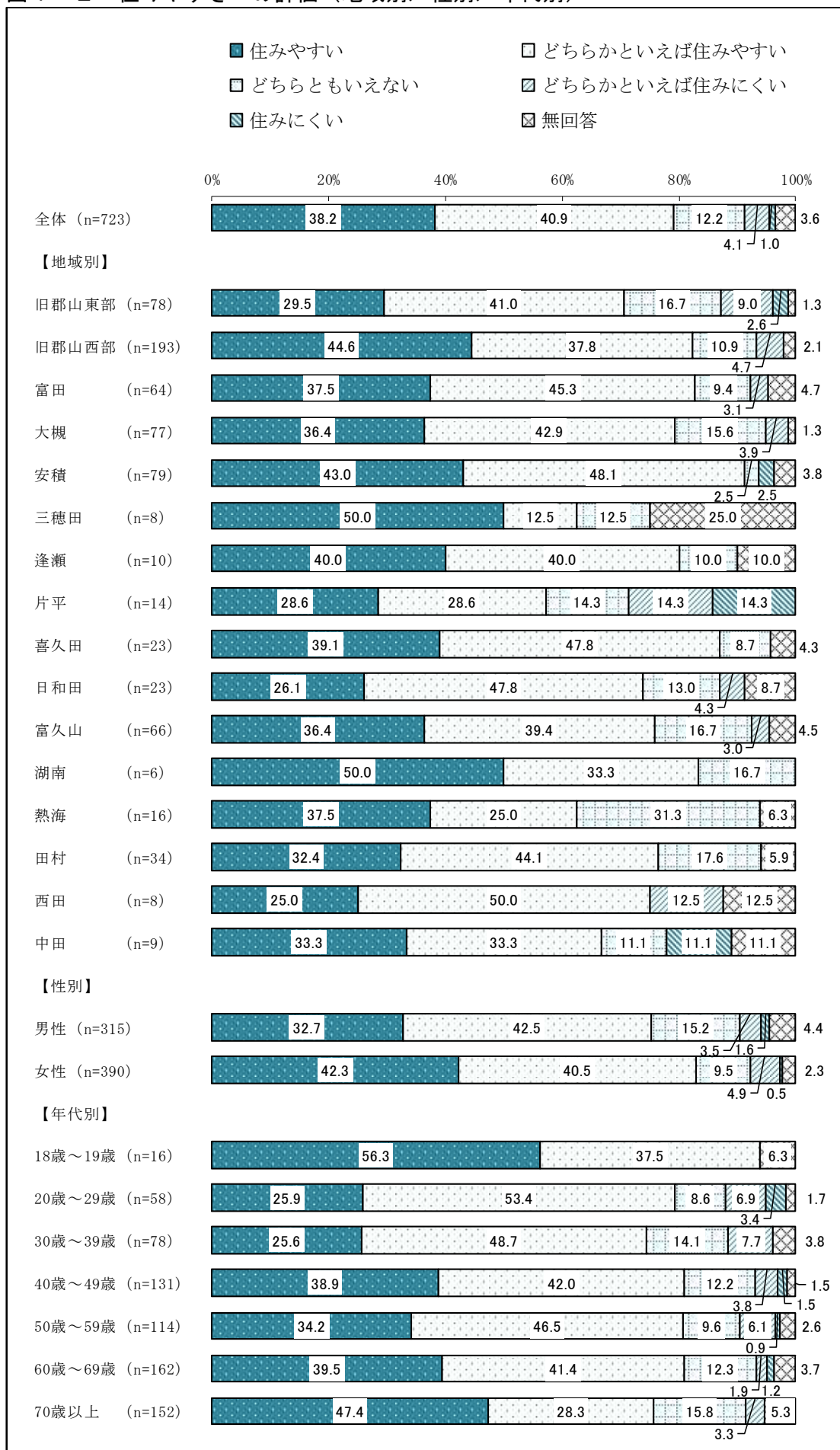
『住みやすい』の割合は、女性（82.8%）の方が男性（75.2%）よりも高くなっています。

② 年代別

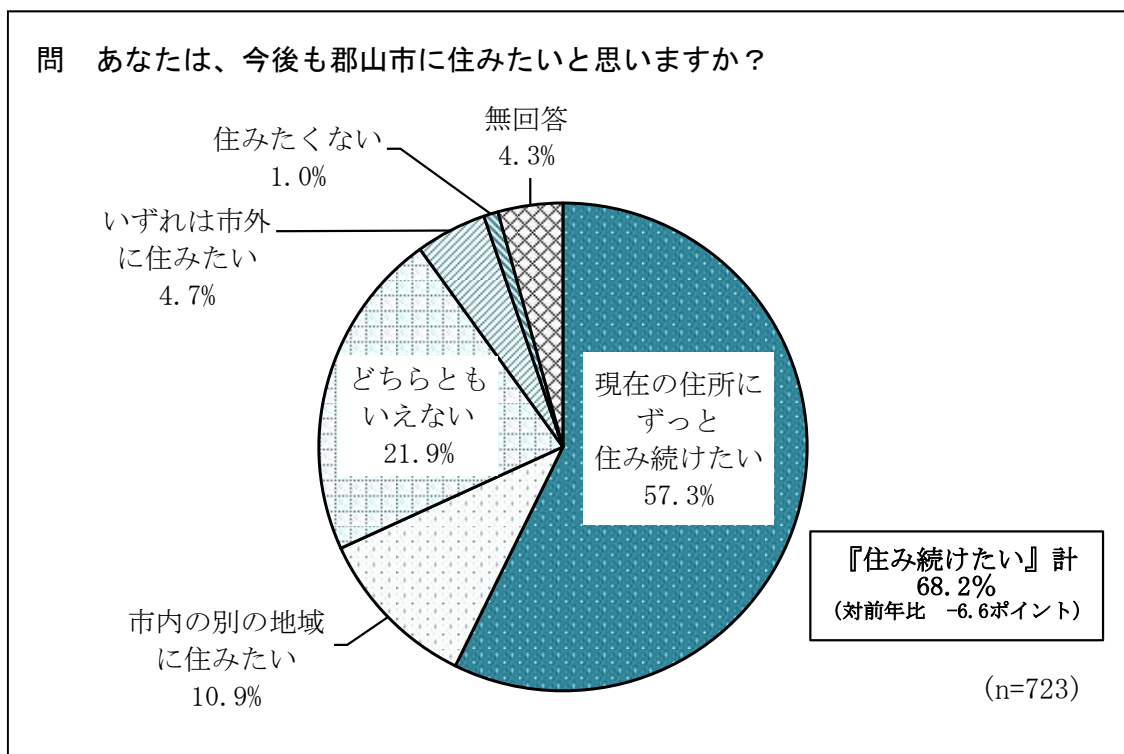
『住みやすい』の割合は、すべての年代で8割前後となっています。

なお、10代については回答数がかなり少ないため、参考として数値のみ掲載します（以降同様）。

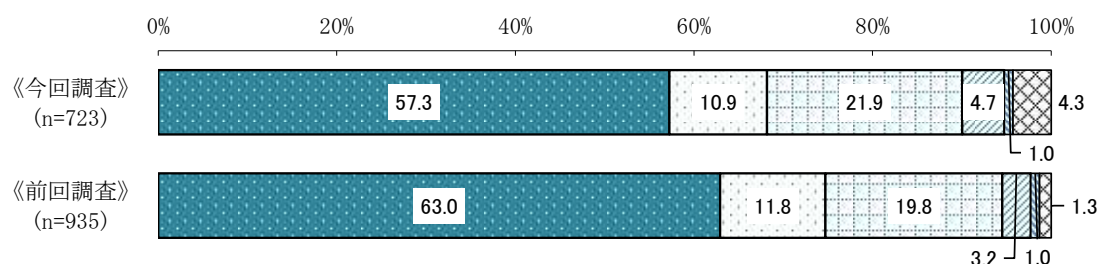
図 1-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居留意向



■現在の住所にずっと住みたい □市内の別の地域に住みたい □どちらともいえない □いずれは市外に住みたい □住みたくない □無回答



7割の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている

【全体結果】

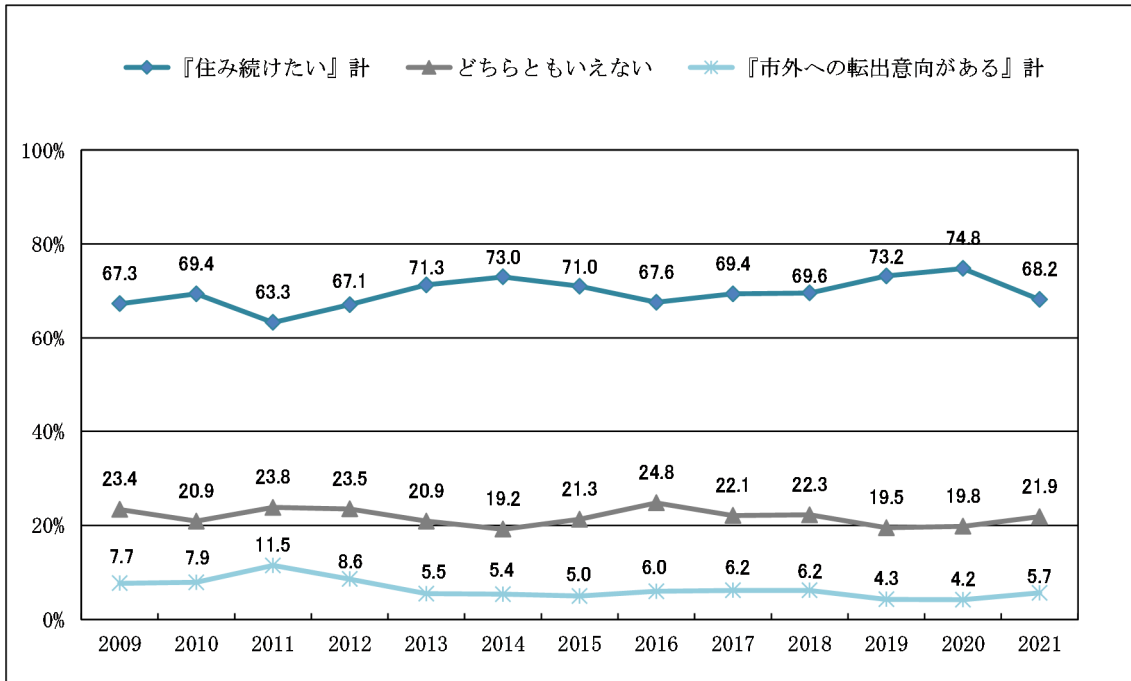
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては、「現在の住所にずっと住み続けたい」(57.3%)と「市内の別の地域に住みたい」(10.9%)の両者を合計すると『住み続けたい』(68.2%)となっています。

前項の『住みやすい』の合計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」が1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.7%)と「住みたくない」(1.0%)を合計すると『市外への転出意向がある』(5.7%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2011年をピークに減少し、2013年以降、横ばいで推移しています(図1-3参照)。

図 1-3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

① 性別

『住み続けたい』の割合は、女性（71.0%）の方が男性（65.1%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（78.9%）で最も高く、次いで60代（72.8%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代、30代ともに10.3%と若い年代で割合が高くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）

